

第197回 全経簿記検定試験 上級 一工業簿記一 解説

模範解答・予想配点・解説等は、学校法人高橋学園が独自の見解によって作成しており、検定試験実施機関における本試験の解答並びに出題の意図を保証するものではありません。なお、予告なしにその内容を変更する場合がございます。ご理解いただいたうえで、ご利用ください。

問題1 工程別実際総合原価計算

問1 A工程の正常仕損費，月末仕掛品原価，完成品原価の算定

仕掛品－A工程				
135,000円 (134,400円)	月初仕掛品 300単位 (210単位)	当月完成品 1,000単位 (1,000単位)	475,200円 (643,950円)	700単位：+44,450円
583,200円 (696,600円)	当月投入(加工) 1,200単位 (1,080単位)	正常仕損 100単位 (50単位)	48,600円 (32,250円)	} 69,850円 ※両者負担
		評価額 △11,000円		
		月末仕掛品 400単位 (240単位)	194,400円 (154,800円)	400単位：+25,400円

(注) 上記ボックス図におけるカッコ内の数値は、加工換算量及び加工費額を示している（以下同様）。

	正常仕損費	月末仕掛品原価	完成品原価
直接材料費	48,600円	194,400円	475,200円
加工費	32,250円	154,800円	643,950円
仕損品評価額	(*)△11,000円	—	—
正常仕損費	—	25,400円	44,450円
合計	69,850円	374,600円	1,163,600円

(*) 110円/単位(仕損品評価額) × 100単位(仕損品数量) = 11,000円

問2 B工程で生じた作業屑の会計処理

製造工程で生じた作業屑が軽微であると判断された場合、原価計算上作業屑の評価額を計算する必要性が乏しいため、「売却して得た収入を原価計算外の収益」として処理する。

借方科目	金額	貸方科目	金額
現金	(*)800	雑収入 (または雑益)	800

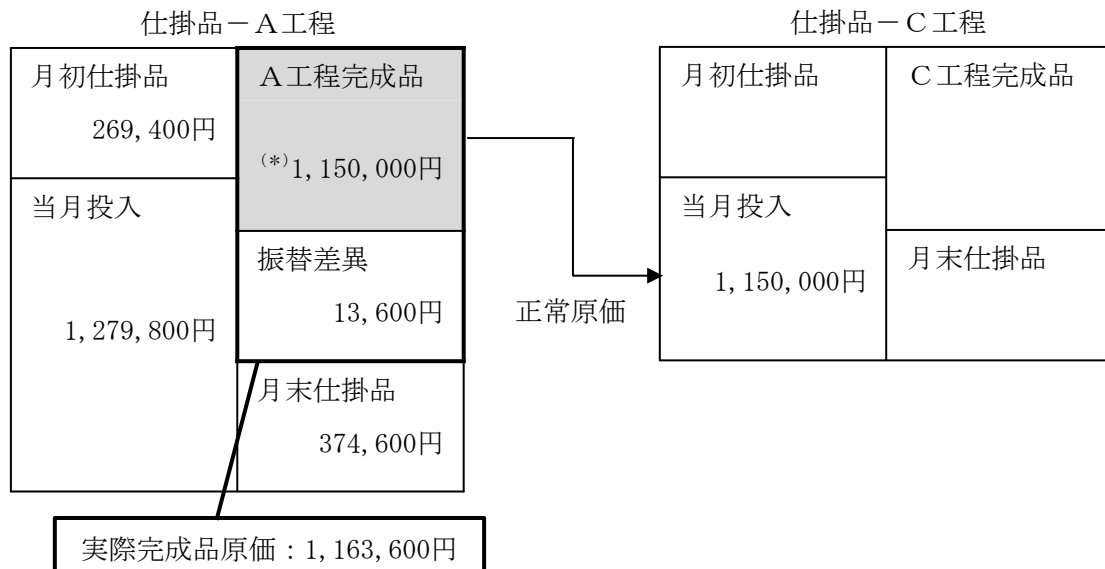
(*) 160円/kg(作業屑売却単価) × 5kg(作業屑数量) = 800円

問3 B工程の月末仕掛品原価、完成品原価の算定

B工程－仕掛品			
65,580円 (43,200円)	月初仕掛品 100単位 (60単位)	当月完成品 690単位 (690単位)	447,900円 (490,500円)
550,800円 (539,600円)	当月投入(加工) 850単位 (760単位)	月末仕掛品 260単位 (130単位)	168,480円 (92,300円)

	月末仕掛品原価	完成品原価
直接材料費	168,480円	447,900円
加工費	92,300円	490,500円
合計	260,780円	938,400円

問4 A工程完成品の振替のための仕訳



(*) 1,150円/単位(単位当たり正常原価) × 1,000単位(A工程完成品) = 1,150,000円

借方科目	金額	貸方科目	金額
仕掛品－C工程	1,150,000	仕掛品－A工程	1,150,000

問5 <資料> 2の①と②の算定

① (C工程 - 当月製造費用 - B工程費) の計算

$$1,350 \text{ 円/単位(単位当たり正常原価)} \times 500 \text{ 単位(B工程完成品)} = \mathbf{675,000 \text{ 円}}$$

② (C工程 - 当月製造費用 - 加工費) の計算

$$^{(*)}410 \text{ 円/時間(加工費予定配賦率)} \times 1,040 \text{ 時間(当月実際操業度)} = \mathbf{426,400 \text{ 円}}$$

$$(*) \{231,000 \text{ 円(変動加工費予算)} + 220,000 \text{ 円(固定加工費予算)}\} \div 1,100 \text{ 時間(当月予定操業度)} = 410 \text{ 円/時間}$$

問6 A工程とB工程の振替差異の算定

	(a)実際完成品原価	(b)正常原価振替額	(a) - (b) 振替差異
A工程	1,163,600 円	1,150,000 円	△ 13,600 円
B工程	938,400 円	931,500 円	△ 6,900 円

問7 C工程の月末仕掛品原価、完成品原価の算定

1. 直接材料費 (A工程費) と加工費の計算

C工程－仕掛品			
115,000 円 (16,300 円)	月初仕掛品 100 単位 (20 単位)	当月完成品 480 単位 (480 単位)	989,000 円 (393,500 円)
	当月投入(加工)		
1,150,000 円 (426,400 円)	500 単位 (520 単位)	月末仕掛品 120 単位 (60 単位)	276,000 円 (49,200 円)

2. 直接材料費 (B工程費) の計算

C工程－仕掛品			
135,000 円	月初仕掛品 100 単位	当月完成品 480 単位	648,000 円
	当月投入(加工)		
^{(*)}675,000 円	500 単位	月末仕掛品 120 単位	162,000 円

$$(*) 1,350 \text{ 円/単位(単位当たり正常原価)} \times 500 \text{ 単位} = 675,000 \text{ 円}$$

	月末仕掛品原価	完成品原価
A 工 程 費	276,000 円	989,000 円
B 工 程 費	162,000 円	648,000 円
加 工 費	49,200 円	393,500 円
合 計	487,200 円	2,030,500 円

問8 C工程の加工費配賦差異の分析

1. 加工費配賦差異

実際発生額	—	予定配賦額	=	加工費配賦差異
(*1)460,600円		426,400円		△34,200円

(*1) 242,600円(変動加工費実際発生額) + 218,000円(固定加工費実際発生額) = 460,600円

2. 変動費予算差異

変動加工費実際発生額	—	変動加工費予算額	=	変動費予算差異
242,600円		231,000円		△11,600円

3. 固定費予算差異

固定加工費実際発生額	—	固定加工費予算額	=	固定費予算差異
218,000円		220,000円		2,000円

4. 操業度差異

予算許容額	—	加工費予定配賦額	=	操業度差異
(*2)438,400円		426,400円		△12,000円

(*2) (*3)218,400円(変動加工費予算許容額) + 220,000円(固定加工費予算許容額) = 438,400円

(*3) 210円/時間(変動加工費予定配賦率) × 1,040時間(当月実際操業度) = 218,400円

問9 月末半製品原価および月末製品原価の算定

1. 月末半製品原価の算定

		半製品 (B工程)			
67,500円	月初半製品	当月販売分	175,500円	130単位	
	50単位				
(*1)256,500円	当月完成品	月末半製品	148,500円	110単位	
	190単位				

(*1) (*2)1,350円/単位(B工程完成品単位原価) × 190単位 = 256,500円

(*2) 931,500円(B工程完成品原価) ÷ 690単位 = 1,350円/単位

	月末半製品原価	半製品売上原価
合計	148,500円	175,500円

2. 月末C製品原価の算定

		C製品		
518,400円	月初製品 120単位	当月販売分 520単位		2,210,483円
2,030,500円	当月完成品 480単位	月末製品 (*3)80単位		338,417円

(*3) 貸借差額

	月末C製品原価	C製品売上原価
合計	338,417円	2,210,483円

問10 当月の営業利益の算定

		損益計算書	(単位:円)
I	売上高		
	1. C製品売上高	(*1)5,096,000	
	2. 半製品売上高	(*2)273,000	5,369,000
II	売上原価		
	1. C製品売上原価	2,210,483	
	2. 半製品売上原価	175,500	
	3. 原価差異	(*3)42,400	2,428,383
	売上総利益		2,940,617
III	販売費及び一般管理費		2,380,000
	営業利益		560,617

(*1) 9,800円/単位(C製品販売価格)×520単位=5,096,000円

(*2) 2,100円/単位(半製品販売価格)×130単位=273,000円

(*3) 原価差異内訳

	原価差異
A・B工程加工費配賦差異	12,300円(有利差異)
C工程加工費配賦差異	34,200円(不利差異)
A工程振替差異	13,600円(不利差異)
B工程振替差異	6,900円(不利差異)
合計	42,400円(不利差異)

問題2 原価計算基準(原価の本質総論)

解答参照。